



千葉大学大学院医学研究院腫瘍病理学
張ヶ谷 健一

日本癌病態治療研究会を 主催するにあたって

この度、第13回日本癌病態治療研究会を千葉幕張において開催させていただくことになり、大変光栄に存じております。1992年に三富利夫先生がこの会を主催なさってから現在に至るまで、この研究会ががん治療、診断、予防における基礎的研究と臨床的研究の紹介、活発な討論の場であったことを踏まえ、今年度の研究会はがん治療に結びつく先端治療をテーマに3つのシンポジウムとテーラーメイド治療を主題としたランチョンセミナーを企画いたしました。この研究会は腫瘍学を専攻する医師や医療関係者に強い興味を持たれる講演を提供することが使命と考えられます。この意味ではここで活発な討論が行われ、現状における種々のがん治療における問題点の抽出、解決法の模索、そして将来への展望が開かれることが期待されます。今回の研究会は先端治療の領域の間口を広げすぎた嫌いはありますが、どの講演者の方も現在の国内外の研究領域をリードする方々であり、皆様方の広い知識の収集とその討論には絶好の場面を提供できるものと自負している次第であります。また、このことは磯野可一会長のご助言と各講演者の絶大なご協力を頂いたことによって可能になったことであり、深くこれらの方々に感謝するものであります。

昨年度の峠 哲哉教授が主宰なさった宮島での研究会に較べて、歴史の匂い、風情のない場所で、趣向が凝らされていない感がありますが、何卒、関東の無骨者が主催する会ですのでこの点をご容赦願います。一日半の研究会は千葉の誇る未来都市、幕張で行いますが、この後には自然の豊富な房総にお出かけくだされば、山海の幸にめぐり会えるものと考えております。皆様の研究会へのご出席を心よりお待ち申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。